ASAHI GAWASOU DAYORI

障害の違いを超えてみんなが楽しんだ「スポーツフェスティバルinひらた」（4面に関連記事）

旭川荘だより

vol. 208

2015.11.01 発行

CONTENTS

P2　真庭地域センター 1周年記念式典
P5　「ひらたの市」始まる
P6　荘内各地で秋まつり
P7　レシピ　かぼちゃときのこのキッシュ
P8　国際ソロプチミスト岡山が植樹

発行／社会福祉法人 旭川荘
〒703-8555 岡山市北区祇園866
TEL 086-275-0131　FAX 086-275-5640
http://www.asahigawasou.or.jp

ロボットスーツ開発の山海教授が講演（3面に関連記事）

「真庭を第二の故郷と呼びたい」

理事長　末光　茂

江草安彦先生顕彰碑の除幕式が、10月3日真庭地域センターで大勢のご参加のもと挙行されました。その碑文は、「真庭を第二の故郷と呼びたい」です。

江草先生は岡山大学医学部小児科学教室に在籍中の昭和27年から、当時の真庭郡八束村の乳児健診に定期的に出かけておられました。そこで「暖国性くる病」の発見と早期治療・予防に尽力されたのです。そして昭和32年の旭川荘開設後間もない昭和36年、旭川学園の子ども達を引率し、蒜山徒歩行進を行い、真庭の愛育委員の方々の熱烈歓迎を受けました。

昭和38年頃、真庭郡愛育委員会連合会の河本花会長は、一家に三人の障害児を抱えた家族を救ってほしいと訴えます。江草先生の「現在の旭川荘の力では受け入れられない。医療機能を有する施設でなければ」との返事を受けて、河本さんは新たな施設をつくる運動を起こします。岡山県愛育委員会連合会の黒田和子会長が全県的な取り組みに広げ、黒住教青年連盟による街頭募金活動、そして山陽新聞の社告と8カ月間の「心身障害者に愛の手を」の連載など、県民をあげての運動につながる、その最初の狼煙を上げてくださったのが真庭です。

旭川児童院の成人式には、毎年旧八束村花園地区の有志の皆様が餅米、杵、臼すべてを持参し、雪の中を駆けつけ、お祝いの餅つきを40年以上も続けてくださっています。

そして昨年5月、知的障害、身体障害そして重症児者の通所ならびにグループホーム「真庭地域センター」がオープン。地域の温かい支援のもと、困難ななかで着実に成果を上げつつあります。この地で障害分野から高齢者、そして芸術文化活動へと広げていく夢を、江草先生は生前熱く語っておられました。先生の思い「真庭を第二の故郷と呼びたい」を肝に銘じ、力を尽くさねばなりません。

真庭地域センター創設1周年記念式典
地元関係者約350人が祝う

旭川荘真庭地域センター（真庭市湯原温泉）で10月3日、創設1周年記念式典が開かれ、荘内役職員や利用者、家族、地元の関係者ら約350人が節目を祝いました。

式典に先立ち、3月に逝去した江草安彦名誉理事長の顕彰碑除幕式を開催。発起人の太田昇真庭市長をはじめ、長男の江草明彦氏、末光茂理事長らが幕を引くと「真庭を第二の故郷と呼びたい」（※）と記した碑が現れ、会場から拍手が沸き起こりました。

続いて行われた式典では、末光理事長が「真庭は江草先生の原点。センターに寄せられた地域の熱い思いを胸に、今後も医療福祉の充実にまい進したい」とあいさつ。

屋外ステージでセンターの紹介をする利用者ら

江草名誉理事長の顕彰碑を除幕する関係者

真庭市愛育委員会の杉本喜美恵会長は、「江草先生が蒜山の乳幼児のために尽力されたことは一生忘れません。地域とともにセンターの発展に努めます」と祝辞を述べました。

当日は1周年記念フェスティバルも行われ、屋外ステージでは地元グループが楽器演奏や銭太鼓などを披露。センター家族会や近隣の障害福祉事業所など15の屋台も並び、参加者は交流を深めました。

※この碑文の詳細は「旭川荘だより192号」（平成26年8月1日発行）2面の「祇園雑記18」をご参照ください。

ロボットスーツ開発の山海筑波大大学院教授 厚生専門学院で講演

「ロボットスーツHAL」の研究で知られる、岡山県出身で筑波大学大学院教授の山海嘉之氏による講演会が10月22日、厚生専門学院吉井川キャンパスで開催されました。

この講演会は、同学院が若者に魅力ある教育環境づくりの一環として山海教授に要請して実現したもので、学院の学生をはじめ、旭川荘の職員や荘外の介護施設の職員ら約150人が参加しました。

山海教授は小学生の頃にロボット開発を夢見た「作文」を披露。筑波大学では工学や脳神経科学などを融合した「サイバニクス」という新領域を確立し、世界初のロボット治療機器として欧州では医療機器として認証も取得。新領域の開拓という困難を乗り越えた経験から、「チャレンジ精神があれば必ずそれを支える人が出てくる」「自分も常にトップランナーでありつつ若い人たちを応援したい」と語りました。

また、科学技術は人や社会の役に立ってこそ意味があるとの思いから、介護する側とされる側の両方に役立つ機器の開発を目指したことを説明。

学生もロボットスーツを着用し移乗体験

介護される側の障害者などに対しては、手足を動かそうとする神経の信号を読み取り、その動きをアシストするロボットスーツを開発。小児まひや脳卒中、両足を失った患者らが歩行やジョギングをできるようになり、笑顔がこぼれる実例を紹介しました。このロボットスーツは残存機能の改善を目的としており、外しても自分で動けることが特徴です。また、京都大学iPS細胞研究所の山中伸弥教授とも連携して研究を進めていることも披露しました。

ロボットスーツについて説明する山海教授（右）

介護する側に対しては、移乗介助など腰に負担のかかる作業を想定し、腰の動きをアシストするロボットスーツを開発。介護現場だけでなく、工場や建設現場、農業などで活用が広がっている様子が紹介されました。

ロボットスーツは学生たちも体験。「腰が引っ張られる感じで、とても楽に介助できた」「介護現場に導入が広がってほしい」と感想を述べると、山海教授は「現場の意見を常に反映して改善するサイクルを作りたいので、細かい意見も伝えてほしい」と期待を語りました。

古川元内閣官房副長官がリーダーシップを熱弁

元内閣官房副長官の古川貞二郎氏による講演会が9月25日にサン・ピーチ岡山（岡山市北区駅前町）で開催され、旭川荘の幹部職員ら約80人が受講しました。

講演する古川氏

この講演会は、社会福祉法人みその児童福祉会（江草明彦理事長）と旭川荘が合同で行っている幹部職員研修会の中で、特別講演として実施されたもの。厚生省の事務次官を務めた古川氏は総理大臣官邸での勤務も長く、総理大臣を間近に見てきた経験や、事務方トップとしての自身の信条を交えながら、「総理官邸とリーダーシップ　一念一念と重ねて一生なり」と題して組織のリーダーのあり方を解説。受講者は普段触れることのできない貴重な話に聞き入っていました。

ドイツ介護保険に関する講演会を開催

旭川荘総合研究所は10月7日、療育・医療センターで「ドイツ介護保険の最新動向―ドイツにおける高齢者・障害者介護と介護人材育成」をテーマとした講演会を開催し、荘内外から約130人が参加しました。

ドイツの介護保険制度について話すイスフォルト教授

ドイツ・ノルトラインヴェストファーレン（NRW）カトリック大学のミハエル・イスフォルト教授が講師となり、わが国の介護保険制度のモデルとなったドイツの介護保険制度について解説。高齢者だけでなく障害者も対象にした制度設計や、「家族介護給付」「認知症」「介護人材の養成」の現状についてデータを交えながら分かりやすく説明すると、会場からも活発に質問が出され、関心の高さが伺えました。

スポーツの秋を満喫
祇園、ひらた、愛媛で運動会

旭川荘恒例の運動会が10月、祇園、ひらた、愛媛で開催され、利用者や家族、職員らがスポーツの秋を満喫しました。

祇園 ハロウィンに合わせ「お菓子とり競争」も

祇園地区の知的障害関係施設による「第36回合同運動会」が10月10日、旭川学園グランドで開催されました。

旭川学園、愛育寮、いづみ寮など6施設の利用者、職員約600人が集結。曇り空で少し肌寒く感じる天気でしたが、会場は参加者の歓声や熱気に包まれました。

今年の目玉競技はハロウィンにちなんだ「お菓子とり競争」。利用者は障害物をくぐり抜け、お化けを退治すると、ハロウィンの仮装をした職員の待つゴールまで駆け抜け、お楽しみのお菓子をつかんでにっこり。注目の「施設対抗リレー」では各施設の代表ランナーがバトンをつないで全力疾走。観客席から熱い声援や拍手が送られ、大いに盛り上がりました。

最後は恒例の「ソーラン節」をみんなで踊り、大きな掛け声が空に響き渡りました。すてきな笑顔をたくさん見ることのできた一日でした。

準備体操で体をほぐす参加者

ゴール目指して職員と一緒に疾走！

ひらた 「借り人競争」に大歓声

ボーナス得点付きの新ルールも採用された「大玉ころがし」

大いに盛り上がった「借り人競争」

「スポーツフェスティバルinひらた旭川荘」が10月10日、同グラウンドで盛大に行われ、4施設の利用者や家族、地域の人たちなど約380人が参加しました。

イベントは今年で13回目。玉入れやフライングディスク競技、大玉ころがしなどいずれの種目とも、障害の違いを超えてみんなが参加できるようにルールや内容に毎回工夫を凝らしています。

この日は曇天でしたが、暑くも寒くもなく、運動会には最適の天気。昨年から種目に加わった「借り人競争」では、指示書を手にした利用者が、観客の中からお姫様やヒーローに扮した職員を探し出すと、手をつないで仲良くゴール。可愛いドレスを着て照れながら走る施設長の姿にみんなが拍手、会場は大いに盛り上がりました。

最後は、わかくさ学園のうらじゃ連「新古今若衆」が登場。メンバーの先導で車いすの人も一緒に踊りの輪に入り、みんなの笑顔があふれる一日となりました。

愛媛 家族も一緒にゲームなどで交流

南愛媛療育センターの運動会が10月4日、訓練棟で行われました。利用者や家族、職員ら約150人がゲームなどで交流を深め、充実したひと時を過ごしました。

運動会は今年で12回目。障害の重い人も参加できる「的当てのゲーム」では、可愛いアヒルに扮した職員が利用者の投げるボールを受けようと右へ、左へ、走り回るなど大奮闘。また、棒の先に吊るしたフックで菓子を釣り上げる「お菓子取りゲーム」では、声援を受けながら利用者と職員が一体となって競技を楽しみました。

プログラムの最後は保護者・職員混合チームによる恒例の病棟対抗「大綱引き」。前回勝利した「こすもす病棟」に挑戦者の「あさがお病棟」、どちらも一歩も譲らぬ好勝負に会場から一段と大きな歓声が沸き起こりました。

歓声が沸き起こった病棟対抗「大綱引き」

職員と一緒に「お菓子取りゲーム」に挑戦

吉備高原車いすふれあいロードレース 吉備ワークホーム利用者5人が出場

第28回岡山吉備高原車いすふれあいロードレース大会が10月11日、吉備高原都市（岡山県吉備中央町）で開催され、県内外約1400人の参加者が集う中、吉備ワークホームから5人の利用者が出場しました。

車いすと一般の選手が同じコースを走る同大会はハーフマラソン、10キロ、3キロの3種目があり、障害の程度や男女別、年齢別に23部門で競います。5人はいずれも3キロにエントリー。家族や職員、ボランティアらの声援を受けてゴールを目指しました。

今回が12回目の出場となる斎藤逸平さんは、車いすの部で3年連続メダルを獲得しており、「今年こそは金メダルを」と意気込んでいましたが、結果は惜しくも銅メダル（T51クラス）。「スタートの下りで時間をとってしまった。自分の思う走りができなかった」と悔しそうに語りました。斎藤さんと同じクラスの浅原伸弘さんは2年ぶりの出場で5位となり「家族や職員がいたから、どうにか頑張れた」と周囲の支えに感謝。T53/T54クラスの小川彰さんは5年連続出場で今回は16位。「順位より、その場の雰囲気が楽しいから参加している」と気負いはなく、車いすのステップを外し足で蹴って進む独自のスタイルで走り抜きました。

ゴールを目指して走る斎藤さん

一方、女性2人は一般女子の部に出場。5年ぶり2回目の難波めぐみさんは79位でゴールし、「大変だったけど楽しかった。知り合いにも会えてよかった」とレースを満喫した様子。初出場の宇那木美緒さんは、栄養士の山下志麿さんに伴走してもらい80位で見事に完走。「坂道がつらかったけど、頑張って走れてよかった」と笑顔で語ってくれました。

レース後に記念撮影する
（前列左から）浅原さん、小川さん、斎藤さん、
（後列左から）難波さん、宇那木さん

「ひらたの市」スタート 地域住民らでにぎわい

ひらた旭川荘（岡山市北区平田）で10月から、利用者が作った食品や手工芸品などを販売する定期市「ひらたの市」が始まりました。会場となった同荘正門付近には各店のテントが並び、地域住民らでにぎわいました。

ひらたの市は、近隣住民へひらた旭川荘のことを知ってもらおうと、荘内の中堅職員を中心に構成された「ひらた旭川荘将来像検討会」のメンバーが、祇園地区の「昼の市」（毎月第4水曜日に開催）にヒントを得て企画。初日の10月22日は、わかば寮など荘内計6施設と、隣接する岡山県立岡山西支援学校やビレッジ興産、トモニー、若観門豆など交流のある事業所など計10カ所が出店しました。

昼休みには職員らが昼食を買いに来店

各店ではパンやハム、野菜など食品を中心に、日用雑貨や花も販売。利用者やひらた旭川荘の職員らも焼きいもや豆腐などお気に入りの商品を買い求めていました。

荘内外から10カ所の店が並んだ「ひらたの市」

初めて訪れたという近所に住む中年の女性は「花が見えたので寄ってみた。施設に入所している人が野菜やお菓子も作っているのですね」と感心し、買い物を楽しんでいました。

この日はオープンを記念して先着40人にわかば寮のおからクッキーやドーナツをプレゼント。11月3日開催の秋まつりと次回以降のひらたの市のチラシを手渡して来場を呼びかけました。ひらたの市は今後、毎月第3木曜日を基本に、11時30分から13時30分まで開催予定です。

ひらたの市の責任者を務める佐藤美彦のぞみ寮寮長は「来てくれる人がいるか心配だったが、盛況でほっとしている。ひらたの市での触れ合いを通して地域の皆さんの理解が深まれば」と期待を寄せています。

秋たけなわ「祭り」各地で次々

秋のイベントシーズンを迎え、荘内の各施設でも「秋祭り」が次々と開催されています。今回は10月に祇園地区と備中支部であった2つのイベントを紹介します。

療育・医療センターまつり

「深まる秋、深めよう絆」をテーマに、10月15日から17日の3日間、旭川荘療育・医療センターまつりが開催されました。

初日のオープニングパレードは、参加した利用者と職員が法被姿で各病棟を回り、三代目 J Soul Brothersの曲「R.Y.U.S.E.I」に合わせて踊りを披露。流行りのダンスナンバーにみんなノリノリでした。

オープニングパレードで踊りを披露する利用者ら

2日目は特に障害の重いすみれ・ふたば病棟の利用者のために、病棟内でスチールパンの演奏会をしました。利用者もタブレットPCのアプリを使って音を鳴らすなど、一緒に演奏を楽しみました。

最終日は晴れた空の下、結びの園一帯を会場に模擬店や各病棟のステージ発表を実施。療育園の子どもたちによる元気いっぱいの「うらじゃ」や、利用者が軽快な音楽に合わせて絵や文字をかくパフォーマンス、ビッグサイズの紙人形を使った「リアル紙相撲」などの趣向を凝らした出し物が繰り広げられました。

“画伯”になってまつりのテーマを描きました

この日は家族も多数訪れ、利用者と触れ合いの一時を過ごしました。最後はみんなで「また会える日まで」を合唱し、会場が一体となりました。

また、期間中は各病棟の様子のほか文化交流活動やリハビリテーション活動の紹介を兼ねた作品の展示も行われました。

かわかみ療護園で「かっこう花祭」

かわかみ療護園の秋の恒例イベント「第19回かっこう花祭」が10月4日に開催され、利用者と地域の人たちが触れ合いを深めました。

園内の特設ステージでは、利用者による「やまびこコーラス隊」が、日中活動での練習の成果を披露。同園の音楽講師、三村眞利子さん率いるアコースティックバンド「フェルマータ」がオカリナで「北の国から」などを演奏しました。“トリ”は地元の有志でつくるロックグループ「山ザルバンド」で、マイク片手に会場を走り回る熱気あふれるパフォーマンスで会場を沸かせました。

会場の一角には利用者が制作した絵画や詩、レザー作品などを展示。療護園オリジナルの「かわかみバーガー」やうどん、おでんの屋台のほか、望の丘ワークセンターや吉備ワークホーム、ヴィレッジ興産などの出店も並び、買い物客でにぎわいました。利用者もボランティアの人たちのサポートにより、楽しい時間を過ごしました。

またこの日は、家族や職員から寄せられた日用品のバザーも実施。収益金は関東・東北地区の大雨で被災した人たちの支援のために寄付する予定です。

「やまびこコーラス隊」のステージ演奏

◇　◇　◇

このほか、いんべ通園センターで9月19日に「ふれあい祭」、せとうち旭川荘で10月17日に「せとうちふれあいまつり」、竜ノ口寮では10月25日に「秋桜祭」が開催されました。

福祉環境フェアに1800人来場

マリーゴールドなど花の販売も盛況

にぎわったグリーンカーテンコンテスト

西大寺地域の活性化を目的とした旭川荘の地域交流イベント「第8回環境福祉フェア」が10月24日、結びの杜（岡山市東区西大寺浜）で盛大に開かれ、地域住民ら約1800人が来場しました。

イベント開始前から長蛇の列ができ、恒例の「掘り出し物市」のテントにはスタート直後に大勢の買い物客が来店。食器や衣類などの日用品をまとめて購入していました。同時に、先着100人の子どもたちに、荘内4施設で作られたクッキーやワッフルなどの焼き菓子がプレゼントされました。

会場では利用者が手がけた手工芸品や陶器の他、農産加工品も販売。マリーゴールドやパンジーなどの花も格安で提供され、飛ぶように売れていました。

その他、荘内の省エネへの取り組みを写真で紹介する「グリーンカーテンコンテスト」や、廃材を活用した「リサイクル工作」といったエコをテーマにした催しもあり、家族連れらでにぎわっていました。

かぼちゃときのこのキッシュ

休日の朝食やランチにも！

○材料（4人分）

冷凍パイシート	1枚	牛乳	100cc
かぼちゃ	1/4個	卵	2個
しめじ	1/2パック	ピザ用チーズ	20g
ベーコン	50g	塩・胡椒	適量

〈作り方〉

① 具材を一口大に切り、かぼちゃはレンジで約2分加熱し、粗熱をとる。パイシートは常温に戻しておく。
② しめじとベーコンをフライパンで炒め、冷ましておく。
③ ボウルに牛乳、卵、チーズ、塩・胡椒を入れてよく混ぜる。
④ ③に具材を入れ、よく混ぜる。
⑤ パイシートを伸ばして型に敷き、フォークで刺して底全体に穴を開け、④を流し入れる。
⑥ 200℃に予熱したオーブンで約25分焼き、6等分に切り分ける。
※焼き時間・温度は、オーブンによって異なるので調節してください。

栄養量：1切れ
エネルギー：190kcal
たんぱく質：7.1g
塩分：0.6g

かぼちゃの旬は7～12月です。収穫のピークは夏ですが、採れたては甘みが少なく、貯蔵することで甘みが増します。そのため秋から冬が食べ頃になります。かぼちゃの黄色い色は豊富に含まれるカロチンの色。粘膜を丈夫にして風邪を予防したり、免疫機能を高めたりすると言われています。また食物繊維も豊富で、便秘の予防・改善に役立ちます。きのこと組み合わせることで食物繊維がさらにアップします。

（旭川荘療育・医療センター　吉田有美）

ワン ONE POINT ポイント

キッシュの具材は、旬の野菜を加えることで季節ごとの味が楽しめます。パイシートを使わず、ココット皿などに流して焼くと簡単です。

リレーコラム

月見を兼ねて宴会 愛媛の「いもたき」

愛媛県人が楽しみにしている秋のイベント「いもたき」。インターネットで検索すると「秋に月見を兼ねて屋外で『いも』を『たき』（炊き）それを肴に大勢で宴会すること」と紹介されています。その起源は愛媛県大洲市の藩政時代に行われていた「お籠り」と呼ばれる親睦行事。農民が地元で夏芋と呼ばれるサトイモを河原に持ち寄り、出し汁で炊いて食べながら相談事をしたそうで、およそ300年の伝統を誇るものです。

この宴会で味わう郷土料理の「いもたき」は、メインのサトイモに鶏肉、厚揚げ、こんにゃく、ゆでたまご、ごぼう、人参等を加え、少し甘みのあるしょうゆ味のだし汁で炊き上げます。具材を食べ終えた後の“鍋の締め”に、うどん玉を入れて食べるのが一般的です。愛媛支部のある鬼北町でも9月の週末の金、土曜に、奈良川河川敷でいもたき保存会主催の「いもたき」が開催され、町民でにぎわいます。ここでは、料理の「いもたき」の他に地元で捕れた川ガニを味わうこともできます。

愛媛支部の職員有志による「いもたき」の宴

郷土料理の「いもたき」

愛媛支部では平成23年から毎年、職員有志による「いもたき」を行っており、今年も藤井千穂支部長の呼びかけで「スーパームーン」に沸いた9月28日の夜、出目（いずめ）宿舎の庭で月見を兼ねた「いもたき」の宴を開催。幼児8人を含む36人が大鍋を囲み、時折雲の間から顔を出す月に歓声を上げながら、よく食べ、よく飲み、大いに語り合いました。

愛媛の「いもたき」。鬼北町に来て体験してみませんか？

（広報委員　西田美雪）

利用者の手作り製品など展示販売 瀬戸内市で「ちょっと見て旭川荘」

旭川荘の利用者の手作り製品や施設の取り組みを紹介する「ちょっと見て旭川荘」が9月23日から10月4日まで、道の駅「黒井山グリーンパーク」（瀬戸内市邑久町虫明）のゆうゆう交流館ギャラリーで開催されました。

5回目となる今年は備前、ひらた支部を中心に15施設が参加。フォトフレームやミニほうきなどの雑貨や、切り絵はがき、クッキー、竹炭など70種類、約1000点の製品を展示・販売しました。

製品作りの様子や余暇活動を写した写真をパネル展示する施設もあり、利用者のいきいきとした表情が来場者の目を引いていました。

15施設の製品などを紹介

悠久の庭に菊桜を植樹 国際ソロプチミスト岡山

国際ソロプチミスト岡山の皆さんから、10月13日に同クラブの花「菊桜」を植樹していただきました。

菊桜を植樹する中原会長（左）と末光理事長

悠久の庭で行われた式典には、関係者約20人が出席。中原聡子会長が「旭川荘60年の歴史を築かれた川崎先生、堀川先生、江草先生のレリーフ像の近くに植樹でき光栄です」とあいさつし、末光理事長が「江草先生たちも喜んでいます。時々、成長する菊桜を見に来てください」とお礼を述べた後、出席者が順番に木の根元に土をかけて植樹しました。

同クラブには、35年前から旭川児童院でおしめたたみなどのボランティア活動をしていただいています。クラブの認証45周年を記念して植樹された菊桜は、池田厚子名誉会員の「お印」に由来するとのことで、香淳皇后の御歌碑にもほど近い場所に植えられました。

植樹式に出席した関係者

神農組合がひらた旭川荘訪問 利用者らに屋台メニュー提供

露店業者で構成する岡山県神農商業協同組合岡山支部のメンバー21人が9月28日、ひらた旭川荘を訪問。利用者ら約500人にたい焼きや綿菓子などの屋台メニューを振る舞いました。

会場となった屋外ステージ前広場には6つの店が並び、施設利用者や岡山西支援学校の生徒らが次々と来店。熱々のたこ焼きや冷たいアイスクリームを味わい、おもちゃの金魚すくいを楽しむなど、祭り気分を満喫しました。

金魚すくいを楽しむ利用者ら

出来立てのたこやきを振る舞うメンバー（左）

同支部では利用者に縁日の雰囲気を味わってもらおうと、40年以上前から旭川荘含め市内3カ所の福祉施設で出店ボランティアを行っています。同支部の武野強支部長は「皆さんの笑顔にやりがいを感じる。これからも喜んでもらえるよう続けていきたい」と話しています。

旭川荘ごよみ
SCHEDULE CALENDAR

11月

2～30日 障害のある人の県庁アートギャラリー（岡山県庁）……旭川荘アートギャラリー
3日 やまびこまつり ……南地区
秋まつり……ひらた地区
西日本肢体不自由児ティーボール交歓大会……旭川療育園
センター祭 ……たかはし障害者支援センター
7日 学園祭 ……旭川学園
百合樹祭 ……愛育寮
10日 旭川荘創立60周年記念式典……旭川荘
16～20日 写真・作品展（川崎病院） ……旭川荘関係施設
17日 永年勤続表彰式 ……旭川荘
18～22日 講座作品展（岡山県生涯学習センター）……くわのみどりの家
☆ 遠足・旅行：各施設

12月

1～2月24日 第6回旭川荘アートギャラリー展（仮称）……旭川荘アートギャラリー
6日 学院説明会 ……旭川荘厚生専門学院
9日 第3回グラチア音楽賞授賞式・コンサート……旭川荘
10～11日 第33回旭川荘医療福祉学会……旭川荘
☆ クリスマス会／忘年会 ｝各施設

編集後記

20代のころ「あなたの夢はなんですか」と聞かれ答えられず戸惑った自分がいました。今になってその問いに答えることができるようになりました。思いがあればいつでもチャレンジできると信じて進んでいきたいと思います。

（広報委員　和田倫明）